

< No.1 >

「学校教育法の一部を改正する法律」が公布され、平成19年4月1日から施行されることになりました。

これまでの特殊教育の対象に加え、通常の学級に在籍するLD・ADHD・高機能自閉症等を含めた発達障がいのある子どもも特別支援教育の対象になります。

そこで、特別支援教育の実践にあたり、園生活の様々な場面で見られる「気がかりな行動（子どもにとっての困り感）」に焦点をあて、その行動の背景の理解に基づくサポートの方法をマニュアルとして作成しました。

「困り感」へのサポート

事例1. ホールのお集まりをどうしてもいやがる

事例2. 登園してから基本的な生活行動がいつまでも身につかない

事例3. 毎朝、決まった行動をしないとパニックを起こしてしまう

「困り感」からの子ども理解

これまで園児の示す「気がかりな行動」を「困った行動」、いわゆる「問題行動」として捉える傾向はなかったでしょうか。

特別支援教育においては、困っているのは本人自身であるという観点から、その子が抱く「困り感」をしっかり受け止め、その理解に基づいたサポートの方法を提案します。

困っているのは誰？

支援を必要としているのは子ども自身です。



先生・親が困っているかどうかではありません。

特別支援教育は一人ひとりの教育的ニーズに応えます。

「困り感」へのサポートの実際

事例1. ホールのお集まりをどうしてもいやがる

先生が「さあこれからお誕生会です。みんなでならんでホールへ行きましょう」と呼びかけました。皆が並びはじめたのに、Aちゃんは一入教室を出たり入ったりフラフラしています。お誕生会が始まってようやく先生と手をつないでホールに入ったAちゃんは、座っていられず園長先生のお話の一節を大声で繰り返して言ったり、奇声をあげて走り出したりするので先生は制止したり追いかけるのに大変です。

Aちゃんの困り感とは？



Aちゃんには、お友達がいっぱい集まっているところに入るのがとってもストレスです。先生と一対一なら大丈夫なのですが、クラスのお友達だけの小集団でもストレスですから、ホールに皆で集合する場面になると、とてもつらく感じ、座っていられないくらい困っていたのです。

またAちゃんにはお集まりの意味がよく分からず、その中に入ると自分はどうしたらよいか分からないのです。先生から皆と同じようにするように促されると、さらに混乱してしまうのです。

サポートの方法

- ・ **見通しを持たせる**・・・これから起こること、次にすることの見通しを持てるように前もって教えておきましょう。予定を知らせておくようにします。時計の針で「お誕生会」が何時に終わるか示してあげるのもよいでしょう。
- ・ **具体的に教える**・・・お集まりの内容を教えておきます。できるだけ具体的に説明しましょう。例えば「お誕生会」は、誰がどんなことをどういう順番で行うのか、自分はホールのどこで何をするのか教えます。
- ・ **逃げ場も用意しておく**・・・あまりに混乱がひどい時には、その場から離れてすごせる場所を用意しておきます。落ち着いてきたら、つらさを共感的に受け止めてあげましょう。

事例2. 登園してから基本的な生活行動がいつまでも身につかない

Bちゃんは年長ですが、登園してからの毎朝の身のまわりのことが一人ではできません。ロッカーにカバンと帽子をかけ、シールをノートに貼り、名札を胸につける。この一連の行動を年少の一年間、毎朝先生に声かけしてもらってやってきました。でも今朝も先生に「カバンをかけていらっしゃい」と言われてカバンはかけたのですが、帽子をかぶったまま遊び始めてしまいました。そんな調子ですから遊びの後の片づけも大の苦手です。

Bちゃんの困り感は？



Bちゃんは気が散りやすく、一つのことを始めても途中で気が移ってしまっって一連の朝の活動がやり終えないのです。

いろいろな活動の場面で手順を考え、段取りを描くことができずに困っていたのです。

また、もとあった場所を覚えていられないので、片づけられないでいたのです。

サポートの方法

- ・ **手順を具体的に視覚化する**・・・一連の手順を分かりやすく示してあげます。やることを順番に絵に描いて(手順カード)ロッカーのところに貼ってあげるのもよいでしょう。
- ・ **集中できるように声かけする**・・・活動に集中できるように環境を整えましょう。気が散らないように周囲におもちゃなどを置かない。また覚えられるように粘り強く声かけし、手順カードを見て確認できるようにしてあげましょう。
- ・ **しっかりほめる**・・・できないことを指摘するよりも、少しでもできたり取り組む姿勢が見えたりしたらしっかりほめましょう。「できる」ことに気づき自信が持てるようにしましょう。

事例3. 毎朝、決まった行動をしないとパニックを起こしてしまう

Cちゃんは、毎朝登園すると入り口に飼っているタライのカメに顔を近づけて、ジーッと見つめるのが習慣になっています。次に隣の水槽の熱帯魚、そして最後は鳥かごの中のオウムです。それを繰り返すので、教室にたどり着くのに20～30分、長い時は1時間もかかってしまいます。お母さんや先生が無理やり上履きをはかせようとすると、ひっくり返って泣きわめき暴れます。教室の中でも普段の日課の変更があったり、順番が違ったりするとパニックを起こしてしまいます。

Cちゃんの困り感は？

Cちゃんは、新しいこと、初めてのこと、変化することがとっても苦手です。

入園して初めて体験することは怖くて、不安で仕方なかったのです。Cちゃんにとっては、幼稚園の生活は予測のつかない変化の連続です。また、音や臭いに過敏なCちゃんには、毎日が騒音と異臭で我慢できないくらい困っていたのです。登園時の同じものを見たり臭いをかぐパターン化した行動は、不安な気持ちを安定させるものだったのです。



サポートの方法

- ・ **予測できるように見通しを**・・・こだわりの背景にある不安に対して、変化への見通しを与えます。黒板に予定を順番に示したり、カードや写真を使って具体的に視覚に訴えたりすることも効果的です。変更がある時には前もって伝えておきましょう。
- ・ **こだわりを許容する**・・・いきなりパターン行動をやめさせようとすると、さらにこだわりが強くなることもあります。周囲に支障のない限り生活に見通しがつき安心感が育つまで、ある程度こだわりを許容することも必要です。
- ・ **感覚刺激への対処**・・・感覚刺激への過敏さからくるつらさへの対処が必要です。刺激から遠ざけ、それが難しいときは音に対しては耳栓・イヤホンをつける。臭いにはマスク・ハンカチを当てたり窓を開けたりして換気をしましょう。味覚や触覚の過敏もしばしば見られます。その結果ひどい偏食になったり、感触からくる着る物（衣類）へのこだわりがあったりします。そのつらさを受け止めながら克服の工夫をしてあげましょう。

まなびサポート事業

特別な教育的支援を必要とする子どもの学習環境を整え、より豊かな学校生活を実現できるよう支援していきます。

教育研究センター 381-7960・7961

まなびサポート相談室〈見明川中学校内〉390-5204

